

# ドイツ遠征を振り返って

## 【西室 隆起】 1993/06/02生まれ

このドイツ遠征は、みんなにとって本当に楽しみにしていたものだった。8月5日に期待ばかりを胸に持ち、成田空港からドイツに出発した。デュッセルドルフ空港に着き、一番最初に感じたことは、日本より気候がよく、過ごしやすそうだなあ—ということだった。空港からはヒルデンのチームのクラブハウスに車で移動しました。日本とは違い、想像していた以上に車のスピードが速すぎてすごびっくりした。クラブハウスに着くと、ヒルデンの人たちがいて、本当に自分たちと同じくらいの年齢なのかなと思うくらい大人っぽく、背が高かったので、この人たちと試合をやるのかと思うと、少々ビビリ気味だった。でもみんな温かく迎えてくれて、優しく明るい人たちでうれしかった。

ホームステイ先の人には、街の中や、有名な場所に連れて行ってもらい本当に楽しかったし、積極的に英語やボディランゲージを使い、自分から話しかけ、ドイツ人と仲良くなれたし、たくさんコミュニケーションが取れて良かった。そして僕は、自分を表現すること、相手の気持ちや、考えを理解するために「言葉」っていうのは本当に大切だということを改めて肌で感じる事ができた。

サッカーの面では、最初の試合では、自分たちのサッカーができなくて、身長の高い迫力のある相手にビビってしまっていたけど、試合を重ねていくうちに、パスがつながり、自分たちのリズムで試合が運べたり、点を取り勝つことができるようになった。でもドイツ人と自分たちの一番の違いは、気持ちの強さだと思う。勝負に対する気持ちや、サッカーに対する気持ち、集中力、ボールの執着心は熱く凄かった。

最後にドイツ遠征では、自分にプラスになることをたくさん経験できたし、行かなければ手に入れることのできないものをたくさん手に入れることができた。ドイツ遠征で得たものは、自分の生活の中で、そしてサッカーの中で生かしていきたいと思います。またドイツに行きたいけど、他の国にも行ってみたい。あつという間だった10日間だったけど、内容の濃い大切な宝物になりました。ありがとうございました。



## 【丹沢 俊平】 1994/02/17生まれ

まず1日目にホームステイ先を知るために、クラブハウスに行った時に、僕たちは同じチームの人たちで「あいつデカイな」としゃべっていたけど、車から降りると向こうの人たちはすぐに近寄ってきて、たくさんいろんな話を話しかけてきました。それも自然にただ仲良くなりたような感じで話しかけてきたので、自分の思っていることをすぐに実行していく事も、日本人とドイツ人との違いなのかなと思いました。ドイツのチームとの初めて試合をした時は、自分の弱い部分を見つけました。それはミスを怖がらずに自分のやりたいことはどんどん試していこう...と頭の中では考えていたけど、試合になると本心が表に出て、ミスをしないで、しっかりとプレーをしていきたいと思って、やりたいプレーをチャレンジしないで中途半端なプレーをしてしまい、結局もっと悪いプレーになって、相手にボールを奪われてしまうようなことがありました。チャレンジしてみて、だめで交代された方が後悔しなくてもっと楽しめるなあと思いました。ホームステイ先での生活はドイツ語で会話するのは大変だったけど、ジェスチャーや英語などを使って通じ合うことができました。びっくりしたのは、本当にいろいろな所へ連れて行ってくれた事です。デュッセルドルフの大きなタワーへ上り、ドイツの街を眺めたり、いろんな料理屋に連れて行ってくれたりしました。とてもうれしかったので感謝の気持ちでいっぱいです。高速道路で街を移動するときに、とてもスピードが速く感じたので、メーターを見ると200km/hも出ていましたのでびっくりしました。もしここが日本だったら...など、いろいろなことを考えてました。

ホームステイ先でドイツ人が陽気だなと思った事は、夜中の1時くらいに、帰ってきてても、まだ寝ようとせず、ゲームを始めたり、お菓子を食べたりして、次の日にサッカーの試合があっても、疲れを取ろうとしないところも日本とは全然違うなと思いました。ホームステイ最後の日には、ホームステイ先の家族にドイツ語で手紙を書いて読みました。これは自分からチャレンジしようと思っていた事なのでドイツに来て成長することができました。チームでの観光は、ケルン大聖堂へ行って階段を上って上から景色を眺めたり、自由時間にはみんなと買い物をしたりしました。ケルンの大聖堂では、中へ入ったら大きな空間が広がっていて、壁にはステンドグラスがたくさん並んでいました。日本には絶対ない風景だったので、スケールの大きさに感動しました。そのあとは、展望台へ行くために、狭く長いらせん階段を上って展望台へ行きました。階段を上っている時は、暑くて息苦しかったけど、展望台に着くと、風が涼しくて景色がきれいだったので辛かったことは忘れてしまいました。買い物ではたくさんの友達にお土産を買うのに大変だったけど楽しかったです。このドイツ遠征では、いろいろな事がありました。ドイツ文化や、街並みやサッカーの試合での良かった所や悪かった所や、道に迷って焦ったことや、ホームステイ先の人たちにお世話になった事など、全ての新しい体験を、これからの私生活やサッカーに生かして、チーム全体や自分自身がもっと成長できるようにしたいと思います。



# ドイツ遠征を振り返って(まとめ)

【窪川 大介(チームキャプテン)】 1993/04/04生まれ

ドイツで過ごした11日間は、僕たちにとって、一生の財産です。ホームステイ初日は、みんな緊張していたせいか、全くと言っていいほど、ドイツ人と話をしなかったと思います。次の日は前の日と比べて、話せるようになり、コミュニケーションもとれました。店へショッピングへ行ったり、家でゲームをしたり、プールなどいろんな場所へ連れて行ってくれました。みんな楽しく過ごせたと思います。僕は散歩をしながら、ショッピングやストリートサッカーなどをしました。びっくりしたことは、道にフットサルコートぐらいのコートがたくさんあったことと、ドイツ人の選手たちは、offの時、とても優しくフレンドリーに接してくれたけど、サッカーになると勝敗にこだわり、真剣に誰とでもプレーできる環境があるということです。

ヨーロッパなどのハートの強さの源がわかってきたような感じです。

あつという間にホームステイも終わり、2人一組のホテル生活が始まりました。ホームステイ初日などの時は、“早く終わんないかなあ！”とか“誰か来てえー”とか思っていたのに、別れの時は、とても悲しくなりました。またホームステイしたいなあ～……。

ホテル生活は、ホームステイの時より時間に厳しくなり、観光がてらに走ったりする機会も多くなりました。もちろんショッピングも増えました。

サッカーの方は、日本との環境の違いや文化の違いなどでメンタル面がとても疲れしました。そんな中、一日一試合集中してプレーすることができました。僕たちより一回りも、二回りも体の大きい選手を相手に、チーム一丸となって試合に挑みました。チームが一つになるきっかけを作ることができました。みんな最後まで頑張ったと思います。

最後にこの11日間はいろいろな体験ができ、たくさんの思い出ができ、ひと回り成長することができた遠征でした。この経験を今後に活かしていきたいと思います。そして今回、僕たちにとって一生の財産を作らせてくれたお父さん、お母さん、そしてすべての環境に……感謝したい。本当にありがとうございました。



# 『珍道中ドイツ遠征』の編集を終えて

【代表 皆川新一】 1960/9/18生まれ

お待たせいたしました……毎年のことながらU15の選手たちが受験戦争真ただ中、やっと編集するパソコンがある机の前に座り、ご父兄の皆様方そして選手たちには、いつできるのか、いつになるのかと……（もうそんな気持ちも、薄れてしまっている……というか、受験のことで頭の中が心配でいっぱい……ですね）……首を長〜くして完成を待っていた【ドイツ遠征 珍道中2009】がやっと完成いたしました。文才のない、ポギャラーの少ない私にとっては、この11日間の活動をまとめることは、本当に頭の痛い作業ではありますが、今この時期に、選手たちの日記やら、私のスケジュール帳に記入したメモ……そして数々の写真……などなどを見ながら、当日のことを想起すると、昨日のことのように、頭の奥から蘇ってきます。

編集された中にも書き込みましたが、関西四国遠征から始まった強行スケジュール、泣言、ネガティブ行動はご法度、全てポジティブに考え、チームの為に、そして自分の為にチャレンジしていこうということで、ドイツ遠征もいろいろな壁にぶつかりながらも、一つ一つクリアして行った選手たち。そして選手たち自身でつかみ取った芯のタフさ、強さ……それが生活、そしてゲームにも表現できるようになってきました。帰国時には、きっとこの選手たちは、これから私のいない2ヶ月間（S級コーチ受講のため）、高円宮杯にむけて毎回のトレーニングも、ゲームも選手たち自身で解決できるようになっていこう！と確信したことを覚えています。そして、彼らのご存じのように、高円宮杯山梨県大会において、最高のパフォーマンスを出し、見事、先輩たちから引き継いでいた連覇……3連覇を成し遂げることができました。決勝戦の戦いを見たとき、2年生の秋、3年生になってからの春と、もがき苦しんでいた選手たちとを考えると、ものすごい成長を感じたのは、私だけではないでしょう!? そんなきっかけになったドイツ遠征、改めて遠征の意義を感じました。

最後に今回の遠征にご尽力いただいたムラキージェンシーの熊谷氏、ドイツとのコンタクトを取っていただいた下田さん、ドイツでのすべてのコーディネイトにご協力いただいたMr.Hemut、ホームステイの受け入れをくださった家族の皆様、本当にありがとうございました。Vieren Dank fuer Alles! そしてなにより、快く送り出してくれたご家族の皆様、本当にありがとうございました。

相変わらず進歩のない支離滅裂な珍道中ではありますが、少しでも現地の様子が伝われば幸いです。それでは、この辺で。

フォルトウナサッカークラブ

代表 皆川新一

